

## 青年期における父-娘関係の研究 I

三輪弘道

### A Study on the Father-Daughter Relationship in the Adolescence I

Hiromichi MIWA

#### 問 題

父親の権威の喪失，父親不在，父なき社会などといわれて既に久しい。

戦前の父親の権威を法的に支えていたものは，明治民法の中の，家族法における強い戸主権であった。戸主が家族の出入りとか身分の変更など一切の権限をもっていた。明治時代には，父親に絶対的権威を付与することが，社会を維持し統一するのに必要であったのである。社会の秩序維持のために，共同体を代表する人に，権限や価値を与え，縦の人間関係を重視する政治や教育を行っていた。

そして，明治以降を含めて戦前の日本の社会は，父親の権威のなかに，子供が社会で生きていくのに必要なしつけと，家を維持していくのに必要な訓練を含めていた。

しかし，現在では家族が完全に消費中心の単位になったため，しつけが人間的な要因となり，かつての父親の教育訓練的役割はおさえられていった。また，戦前しつけの担当者である母親は，家を守ることを前提にして，父親という制度化された権威を背負って子供をしつけていた。それが，戦後婦人の地位が向上すると，父親と母親の関係は，縦の関係から横の関係になっていった。母親は父親とは独立に子供をしつけることが出来るようになったのである。

このようにして，父親の権威は次第に力をなくしていったと考えられる。

しかし，戦前も，実際の日常生活で絶対的な父権が存在していたわけではない。生活様式や所属する社会階層によって，父権が異なっていたと考えられる。したがって，かつては強い父権が存在していて，現在は喪失してしまったと一概に断定できない面もある。

次に，父と子の断絶という問題がある。

昔でも，父と子の間のゼネレーションの断絶は当然あったであろう。ただ，それが戦前は父親の権威が強かったために，現在のように子供が父親にあからさまな反抗をすることは出来なかった。また，現在は，社会の変化が非常に早くなったため，断絶の距離の幅が広がってきたし，子供の自立期間が長くなったので，父と子の断層が一層顕著になってきたともいえる。何れにしても，父親と子の関係は，大きく変化してきた。

現在の青年たちは，父親をどのようにながめ，理想とする父親像をどのように描いているのだろうか。父親の思い出，父親の存在意義，理想とする父親像の三点から考察し，現代青年の父-子関係を明らかにする手がかりとしたい。

## 調査手続き

### 1. 調査対象

名古屋女子大学家政学部3年108名

### 2. 調査場所

名古屋女子大学天白学舎

### 3. 調査日時

平成元年6月

### 4. 調査方法

質問紙調査法 (自由記述方式)

### 5. 調査依頼の方法

調査用紙に記入してもらう際、「調査回答は公表されることがあるかもしれないが、無記名なの、名前が公表されることはない。正直に回答してもらいたい」といって、調査を依頼した。

## 調査結果

### 1. 父との思い出

「あなたの、父との思い出を書いてください」という質問に対する自由記述の回答を、父との思い出の出来事、思い出の時期の2点から整理した。

#### (1) 思い出の出来事

##### ① 思い出の内容

父との思い出の出来事を、内容によって整理・集計すると以下の通りである。

表1 父との思い出

	実数	%
叱責	31	24.8
称賛(喜び)	4	3.2
指導	11	8.8
共同作業	3	2.4
家族旅行	13	10.4
遊び	20	16.0
働く父	3	2.4
父との議論	2	1.6
父の言葉	5	4.0
父の能力	3	2.4
父の優しさ	8	6.4
その他	22	17.6
合計	125	100.0

##### ② 思い出の手記

###### (i) 叱責

a. 7歳のとき、そろばん塾をさぼったことが父にわかり、たたかれたこと。

- b. 母に向かって「バカ」といったことに対し、父と大喧嘩になり、たたかれたこと。
- c. 母の財布から黙ってお金を持ち出したことが父にわかり、ロープに縛られ、堤防の上から転がされたこと。
- d. 中学3年の受験時に、遊びに行っていて遅くなった。その時、嘘の言い訳をしたので、いままでにない怒られ方をしたこと。
- e. 大学生になって、帰りが遅かったため、ひどく叱られたこと。

(ii) **遊 び**

- a. 6歳のとき、父と妹と私の3人で、自転車で海岸を走ったこと。
- b. 幼い頃、飛行機遊びなどをして遊んでくれたこと。
- c. 子供の頃、かくれんぼなどをして遊んでくれたこと。
- d. お祭りを見に行き、綿菓子を食べたり、金魚すくいをしたこと。
- e. 小学校へ入学する前日、父が私を肩車にして「もうすぐ1年生」を歌いながら、家の中を歩き回ったこと。
- f. 百人一首の得意な父と、お正月遊んだこと。

(iii) **家族旅行**

- a. 夏休みや冬休みになると、家族で旅行したこと。
- b. 上高地への家族旅行が思い出に残っている。
- c. 小学校の頃、砂丘へ家族旅行したこと。
- d. 大みそ日に、父と一緒に伊勢神宮へ行き、新年を迎えたこと。
- e. 車で北海道へ家族旅行し、車中、父といろいろ話したこと。

(iv) **指 導**

- a. 幼稚園の頃、父から歌を教えてもらい、覚えた歌と一緒に歌ったこと。
- b. 中学2年から3年にかけて、毎朝6時から7時まで、父と一緒に勉強したこと。
- c. 小学校1年のとき、母から何度説明を受けてもわからなかったアナログ時計の読み方を、優しく教えてもらったこと。
- d. 歴史の得意だった父は、休みの日になると、歴史に関係のある場所へ連れていってくれ、いろいろ教えてくれたこと。
- e. 大学進学について、父が相談にのってくれたこと。

(v) **父の優しさ**

- a. 母と喧嘩した日の午後、父は私を居酒屋に連れていき、私の愚痴を黙って聞いてくれたこと。
- b. 最近、母と私が喧嘩したとき、父から電話があり、「お父さんはわかっているから」といってくれたこと。
- c. 遊びに行き、帰りのバスがなくなってしまった。家へ電話したところ、父が当地まで迎えに来てくれたこと。

(vi) **父の言葉**

- a. 「千日刈った草を、一日で焼く」ということばの意味を教えてくれたこと。
- b. 自分の夢以上になることは絶対はないから、夢は大きくもてと言ったこと。
- c. 高校のとき、体操部の試合で、難しい技に挑戦し着地に失敗してしまった。そのとき父が、「小さな成功より、大きな失敗だよな」といったこと。

(vii) 称賛(喜び)

- a. 高校入試の発表の日、合格を知らせたらとても喜んでくれたこと。
- b. 高校入試の発表の日、わざわざ会社を抜け出して、見に来てくれた。そして、泣きながら、私に握手を求めてくれたこと。
- c. 大学受験最後の日、「よく頑張った」といって、食事に連れて行ってくれたこと。

(viii) 共同作業

- a. 幼稚園の父親参観日に、一緒に粘土で猫を作ったこと。
- b. 幼稚園参観日の日に、二人で作った粘土細工。今でも宝物であること。
- c. 宿題の凧がうまく作れなかったとき、父が手伝ってくれたこと。
- d. 年末、父と一緒に庭の掃除をしながら、会話をしたこと。

(ix) 働く父

- a. 父の働く仕事を見て、一生懸命働いている姿や、父のおかれている地位を知り、父はすごいと思ったこと。
- b. 父が教師だったため、日曜日には父の学校へ行って父の仕事ぶりを見たことが思い出に残る。
- c. 楽しい思い出も、嫌な思い出もない。ただ黙々と働く父の姿しかない。

(x) 父の能力

- a. 小学校のとき、山へキャンプに行った。魚の食べ方、テントの張り方など、何でも出来る父に感心した。
- b. 父と一緒に外国へ行ったとき、英語が上手なのに驚いた。

(2) 思い出の出来事の時期

調査回答には、思い出の出来事の時期が記入してあるものもあるし、記入してないものもあった。

調査が自由記述方式であったため、時期が特定できないのが多かったのも致し方ない。

表2は、思い出の出来事の時期をまとめたものである。時期が、幼稚園と小学校、小学校と中学校、中学校と高校、高校と大学のように2つにわたったものは、便宜的に下位にある学校時代として数えた。

表2 思い出の出来事の時期

時 期	実数	%
幼稚園・保育園	18	10.3
小 学 校	29	16.6
中 学 校	16	9.1
高 校	12	6.9
大 学	5	2.9
無 記 入	93	53.1
合 計	175	100.0

2. 父の存在意義

「あなたにとって、現在父親はどんな存在ですか」という質問に対して、自由記述で回答させた。被調査者によって、父親の存在意義は異なり、ある者はプラスに存在し、ある者はマイナスに、またある者はゼロに等しく考えている。

(1) 父親の存在意義の分類

父親の存在意義を認めている記述、認めていない記述、どちらともいえない記述の3つに分けて整理した。記述数は被調査者によって異なる。

表3 父の存在意義

存在意義を認めているもの (プラス) 66		存在意義が乏しいもの (ゼロ) 21		存在意義を認めていないもの (マイナス) 9			
無くてはならない存在	9	厳しい人	4	友達みたいな存在	12	頼りない存在	1
頼りになる存在	7	優しい人	5	甘えられる存在	3	尊敬に値しない存在	2
大きな存在	7	恐ろしい人	1	なくてもよい存在	2	自分勝手な存在	1
大黒柱的存在	3	強い人	2	存在の薄い人	3	役立たない人	2
絶対的存在	1	すごい人	1	仏様のような人	1	偉大さがいない人	1
叱ってくれる存在	1	無口な人	1			うるさい存在	2
怖い存在	7	教養の人	1				
尊敬できる存在	8	博識の人	2				
安らぎを与える存在	2	偉大な人	1				
生活費を稼ぐ人	1	接しやすい人	1				
よき理解者	7	家族思いの人	1				
相談相手	9						
人生の先導者	1						
教えてくれる人	2						

(2) 手記

① 父親の存在意義を認めているもの

(大黒柱的存在, 偉大な人)

- 高校を卒業するまでは、父親の存在を、ただ単に、一家の大黒柱的存在にしか思っていませんでした。しかし、いま離れて暮らしてみると、その思いが何十倍、何百倍にも膨れ上がっています。父の存在が、いまの私にとってあまりにも偉大なので言葉で言い表わせません。

(無くてはならない存在, 頼りになる存在)

- 母と私が乗った車が事故にあったとき、最も頼りになったのは父でした。やはり、普段頼りなさそうでも、いざというとき、家族を支えてくれるのは父だということを、改めて感じました。父は無くてはならない存在です。

(よき理解者)

- 私にとって父は、母よりも少したくさん尊敬する人物です。私の言いたいことのほとんど全部を、私のしたいことのほとんど全てを理解してくれるのです。簡単に解決できそうな悩みは母に相談し、深い悩みは父に相談します。

② 父親の存在意義が乏しいもの

(友達みたいな存在)

- いまは、同じ趣味をもった友達みたいな存在です。

(存在の薄い人)

- 父はいま、単身赴任のため大阪で一人で暮らしています。ほとんど会う機会も、話す機会もなくなってしまいました。私にとって、現在の父親の存在は非常に薄いものです。

## 3. 理想とする父親像

「将来、あなたのお子さんにとって、あなたの夫はどんな父親であってほしいですか」という質問によって、妻からみて、子供からみて、理想的な父親はどんな人物であろうかを知ろうとした。自由記述の結果を整理すると、以下の通りである。

## (1) 理想とする父親像の特性

被調査者の自由記述のなかから、理想とする父親像の特性などを抜き出し、整理したものが表4である。理想とする父親像を示す語が多い被調査者もあれば、少ない被調査者もあった。しかし、今回の調査の主な目的が、調査項目の選択にあることから、その点については問題としないことにする。整理結果は表4の通りである。

表4 理想とする父親像

父親のような人	18	家族愛	43	その他	24
威 厳	15	子供を遊んでくれる人	15	偉大な人	1
威厳のある	8	子供と一緒に考える人	3	判断力のある人	1
堂々としている	5	子供の意見を聞ける人	1	行動力のある人	1
風格のある	1	子供の教育に関心のある人	3	真面目な人	2
存在感のある	1	子供を大切にする人	1	約束を守る人	1
信 頼	16	親子のコミュニケーションを大切にする人		公平な人	1
信頼できる人	2		15	思いやりのある人	1
頼れる人	8	家族を大切にする人	5	暖かい人	1
包容力のある人	3			愛される人	2
大きな心の人	3			優しい人	7
厳しさ	26			広い視野の人	1
厳しい人	15			教養のある人	1
強い人	2			友達のような人	4
怖い人	4			しっかり生きている人	1
けじめのある人	2			何事も一生懸命取り組む人	1
叱かる人	3				
尊 敬	7				
尊敬できる人	7				

## (2) 理想とする父親像の手記

自由記述のなかから、現代女子青年が理想としている父親像のいくつかをとりあげることにする。

## (父親のような人)

- ・私の父親のような人であってあって欲しいです。

人への思いやりが深く、思ったことがすぐ実行できて、家族を大事にして、ジョークもいえて、誰からも好かれるというのが、私の父です。ほめ過ぎかとも知れませんが、実際その通りです。私は、自分の父を人に自慢できます。私の夫となる人も、私が、自慢できるような立派な人であって欲しいです。

**(威厳のある人)**

- 単に悪いことをしたら叱る、たたく、殴るということは、誰にでもできることですが、父の働く姿や、日常の生活信念のようなものが、自然に子供たちに伝わる、そんな威厳をもった人がよいと思います。

**(頼れる人)**

- 近頃、子供が父親を頼りなく思うということをよく聞きます。父親が厳格すぎるのも問題ですが、子供の教育は母親まかせというのも困ります。子供は、父の姿を見て自分が頼れるか、頼れないかを判断するのだと思います。私は、子供にとって頼れる父親が一番よいと思います。

**(厳しい人)**

- 子供のことをほったらかしにせず、厳しい父親。甘くて、子供のことは母親まかせ、何かあると、人のせいにする人だけは、絶対にいや。

**(尊敬できる人)**

- 子供が、「父親だから、いうことを聞かなくてはいけない」という義務的なものではなく、「父親のいうことは、素直に、心から聞くことができる」というほど、心の底から、子供が尊敬できる父親であって欲しい。

**(子供と遊んでくれる人)**

- 私の家は女ばかりです。母がいて、私がついて、妹がついて、そして男性は父だけです。そのためなのでしょう。私は父親が息子とキャッチボールをするという風景にとってもあこがれています。しかし、子供が、男の子か女の子かまでは断定できませんし、それによって接し方が変わるようでも困るので、とにかく、子供とよく遊んでくれるような父親(夫)がいいです。

### 調査結果の検討

本調査では、女子青年が、父親をどのようにみているのかを、父親との思い出、父親の存在意義、理想とする父親像の三つの点から明らかにしようとした。

被調査者に大学生を選んだのは、本調査が自由記述の方式をとる必要から、自由記述で、自分の考えをまとめ、言語表現する能力にすぐれていると考えたからである。調査の結果では、本文でもわかるように、その目的は十分果たされた。

この調査は、青年期の父-娘関係を明らかにしようとするものであるが、今回の調査は、その予備段階で、青年に選択肢からあてはまるものを選ばせるのではなく、自分の父-娘関係を自由に記述させ、その結果から調査計画をたて調査票を作ろうとするものである。そのため調査結果に統計的な処置は行はれていない。結果の分析は現段階ではさし控えなければならないが、二・三ははっきりとわかったことのみ指摘する。

父-娘関係というのは、かなり強く、娘が父親のような男性を理想としているものが多かった。なかには、父親をあまりにも理想の男性を考えすぎて、将来結婚の支障になるのではないかとさえ思われるものもあった。

父権の喪失が話題となり、父親に厳格さ、厳しさがなくなったといわれる。しかし、父との思い出の中には、父親に叱られたことが最も多く残っている。父親的なもののなかには、生きていく規範を知って、それを守るための厳しさをもつことがあるとしたら、これは今もお健在であるといえよう。

しかし、父親が家族のなかで、なくてはならない、大きな存在であり、厳格さ、厳しさも求められている一方、父親は子供のよき理解者であり、子供とのコミュニケーションを大切にし、子供と遊んでくれる人を理想としている。そして、思い出のなかに、父といっしょに遊んだこと、家族で旅行したことが多いを考えると、戦前の父親の一方的な厳しさではなく、父と子とで理解しあった厳格さ、厳しさが求められているのではないかと思はれる。

以上、調査結果をながめ、とくに顕著にあらわれたことのみ指摘するにとどめ、詳細は次回の報告にゆずりたい。

### 参 考 文 献

- Mitscherlich, A. 1963 *Auf dem Weg zur Vaterlosen Gesellschaft. Ideen zur Socialpsychologie.* R. Piper & Co. Verlag, München (小見山実訳 1972 『父親なき社会』新泉社)  
小此木啓吾 1978 新しい父親像 小此木啓吾 『モラトリアム人間の時代』中央公論社  
山村 健 1988 母性のなかの父性 児童心理 (特集) 父親の役割 金子書房